

「高校における国語教育／短大における日本語教育」

湘北短期大学 小森潔

(第10回高大連携教育研究会 二〇一八年二月六日)

## 一 本学の現状

- ・ 専門科目において(読めない・書けない)
- ・ SPIができない。「履歴書」「エントリーシート」「就職作文」が書けない

## 二 「日本語リテラシー」改訂の概略

- ・ 二〇一七(平成二九)年度改訂。それ以前は前期に「話す」、後期に「書く」
- ・ 現在は、前後期とも「話す・書く」。後期はレベルを上げる
- ・ キャリアサポート部と協力。「就職活動対策講座」の内容と重ねながら
- ・ 学習の狙い

## 三 高校における国語教育の現状と問題点

- ・ 読解中心
- ・ 解答を暗記
- ・ 書くことの教育が不足
- ・ 変わらない教材
- ・ 「新学習指導要領」

## 四 「日本語リテラシー」のポイント

- ・ ことば(日本語)への興味を喚起
- ・ 表現したいことはある↓表現してよい
- ・ たくさん書くトレーニング
- ・ 考えるトレーニング
- ・ 知識も増やす

## 五 「日本語リテラシー」以外の科目での実践

- ・ 「現代日本文化論」(二年次後期LA科目)
- ・ 「言語表現とコミュニケーション」(総ビ・情報学科一年次前期専門科目)

## 六 結論

- ・ さまざまな科目でのトレーニングが必要

## 【配付資料】

- ・ H30「シラバス」四科目分、「日本語リテラシー」小テスト二枚とプリント一枚
- ・ 「シンポジウム・国語教育とは何か」(『早稲田大学国語教育研究』第十六集、一九九六年三月)
- ・ 高校教科書『国語表現』目次(教育出版、平成二五年三月検定済)
- ・ 「学習指導要領改訂の方向性」(平成二八年二月一九日、文部科学省教育課程部会国語ワーキンググループ)

・ 小森潔「変わること／変わらないこと―「新学習指導要領」と今後の国語教育―」(日本文学協会編『日本文学』二〇一七年一〇月)

科目名	日本語リテラシーⅠ (Japanese Literacy I)		科目コード	(ふりがな) 担当者	専任・非常勤
	2単位	開講期	前期		
[履修条件、準備等] 課題に積極的に取り組む姿勢が必要です。					
[授業の具体的到達目標] 短大での学習に役立つ日本語運用能力、社会人として必要な日本語運用能力の基礎を身に付けることができます。また、就職活動に不可欠な基礎的語彙力も向上します。					
[授業の概要] 1～7回は人前で「話す」トレーニングに、8～15回は文章を「書く」トレーニングに取り組みます。同時に、現代社会に対する興味・関心を深めるために、文章読解や情報取得のスキルについても学びます。なお、就職試験対策として、SPI試験の小テストを毎回行います。					
回数	授業計画		授業時間外の学習(予習・復習の内容)		担当者
1回	社会人としての会話：あいさつ、返答、日常使用している言葉などを見直す		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
2回	自己紹介1：自分のコミュニケーション能力を見直し、自己認識を深める		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
3回	自己紹介2：自分のコミュニケーション能力を見直し、自己認識を深める		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
4回	スピーチ1：実際にスピーチをして、人前で話すことに慣れる		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
5回	スピーチ2：実際にスピーチをして、人前で話すことに慣れる		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
6回	敬語1：敬語の基本		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
7回	敬語2：敬語の使い方と役割		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
8回	書き方入門1：「よい文章とは」「記憶に残る文章」「ストレスのない文」		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
9回	書き方入門2：「文章作成の手順1」「文章作成の手順2」		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
10回	作文基礎編1：家族や友人など、身近な人について書いてみる		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
11回	作文基礎編2：家族や友人など、身近な人について書いてみる		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
12回	意見文基礎編1：自分自身の意見を述べる—新聞記事を読んで—		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
13回	意見文基礎編2：自分自身の意見を述べる—新聞記事を読んで—		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。		

		・授業時に示すポイントを復習すること。	
14回	作文応用編1:「私の好きな〇〇」を紹介する	・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・授業時に示すポイントを復習すること。	
15回	作文応用編2:ドラマやアニメ等の感想文を書く	・授業時に示すポイントを復習すること。	
試験等	実施しない		

[成績評価]

課題70%、小テスト30%の比率で評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバック]

課題は解説を行う。

小テストは採点の上返却する。

	書名	著者	ISBN	出版社
テキスト	『日本語リテラシー』	伊藤善隆・小森潔監修	9784787906274	新典社
参考文献	特になし			

[備考] 2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、受講生に望むこと、オフィスアワー等

- ・受講のルールを第1回目の授業時に説明します。
- ・オフィスアワーを設定します。質問・相談がある場合は、授業終了後に非常勤講師控室に来てください。

ループリック

評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
日本語運用能力の内、「話す」分野についての知識の理解(10ポイント)	社会人としてのあいさつや返答、敬語の使い方、自己紹介やスピーチのポイントが理解できている。	社会人としてのあいさつや返答、敬語の使い方、自己紹介やスピーチのポイントの理解が不十分。	社会人としてのあいさつや返答、敬語の使い方、自己紹介やスピーチのポイントが理解できていない。
日本語運用能力の内、「話す」分野についての実践(25ポイント)	社会人としてのあいさつや返答ができる。敬語が使える。自己紹介やスピーチができる。	社会人としてのあいさつや返答はできるが不十分。敬語は使えるが不十分。自己紹介やスピーチはできるが不十分。	社会人としてのあいさつや返答ができない。敬語が使えない。自己紹介やスピーチができない。
日本語運用能力の内、「書く」分野についての知識の理解(10ポイント)	「よい文章」「記憶に残る文章」「ストレスのない文」「文章作成の手順」が理解できている。	「よい文章」「記憶に残る文章」「ストレスのない文」「文章作成の手順」の理解が不十分。	「よい文章」「記憶に残る文章」「ストレスのない文」「文章作成の手順」が理解できていない。
日本語運用能力の内、「書く」分野についての実践(25ポイント)	作文、意見文、紹介文、感想文を書くことができる。	作文、意見文、紹介文、感想文を書くことはできるが不十分。	作文、意見文、紹介文、感想文を書くことができない。
基礎的語彙力の理解と応用(30ポイント)	SPI試験の内容を理解しており、十分に解答できる。	SPI試験の内容は理解しているが、解答が不十分。	SPI試験の内容を理解しておらず、解答できない。

科目名 (英語名)	日本語リテラシーII (Japanese Literacy II)		科目コード	(ふりがな) 担当者	専任・非常勤
	2単位	開講期	後期		
[履修条件、準備等] 課題に積極的に取り組む姿勢が必要です。					
[授業の具体的到達目標] 短大での学習に役立つ日本語運用能力、社会人として必要な日本語運用能力が向上します。また、就職活動に不可欠な語彙力も向上します。					
[授業の概要] 1～7回は人前で「話す」トレーニングに、8～15回は文章を「書く」トレーニングに取り組みます。同時に、現代社会に対する興味・関心を深めるために、文章読解や情報取得のスキルについても学びます。なお、就職試験対策として、SPI試験の小テストを毎回行います。					
回数	授業計画		授業時間外の学習 (予習・復習の内容)		担当者
1回	意見を述べる1：与えられたテーマに対して		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
2回	意見を述べる2：与えられたテーマに対して		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
3回	敬語の応用		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
4回	電話応対		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
5回	ディスカッション1：与えられたテーマに基づいて		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
6回	ディスカッション2：与えられたテーマに基づいて		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
7回	就職試験グループ面接入門		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
8回	意見文応用編1：自分の主張を明確に伝える—与えられた課題に対して—		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
9回	意見文応用編2：自分の主張を明確に伝える—与えられた課題に対して—		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
10回	メールの基本：社会人としてのメール		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
11回	メールの応用：お知らせのメール、問い合わせのメール		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
12回	はがき・手紙の書き方		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。		
13回	レポート・報告書の書き方		・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。		

		・授業時に示すポイントを復習すること。	
14回	就職作文1：自分自身の将来について思い描く テーマ	・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・授業時に示すポイントを復習すること。	
15回	就職作文2：社会への関心や姿勢が問われるテーマ	・授業時に示すポイントを復習すること。	
試験等	実施しない		

[成績評価]

課題70%、小テスト30%の比率で評価する。

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバック]

課題は解説を行う。

小テストは採点の上返却する。

	書名	著者	ISBN	出版社
テキスト	『日本語リテラシー』	伊藤善隆・小森潔監修	9784787906274	新典社
参考文献	特になし			

[備考] 2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、受講生に望むこと、オフィスアワー等

・受講のルールを第1回目の授業時に説明します。

・オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。質問・相談に来てください。

ループリック

評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
日本語運用能力の内、「話す」分野についての知識の理解 (10 ポイント)	意見の述べ方、敬語の応用、電話応対、ディスカッションやグループ面接のポイントが理解できている。	意見の述べ方、敬語の応用、電話応対、ディスカッションやグループ面接のポイントの理解が不十分。	意見の述べ方、敬語の応用、電話応対、ディスカッションやグループ面接のポイントが理解できていない。
日本語運用能力の内、「話す」分野についての実践 (25 ポイント)	敬語を的確に使える。社会人としての電話応対ができる。ディスカッションやグループ面接で意見を的確に述べることができる。	敬語の使い方や社会人としての電話応対が不十分。ディスカッションやグループ面接で意見を述べることはできるが不十分。	敬語を使えない。社会人としての電話応対ができない。ディスカッションやグループ面接で意見を述べることができない。
日本語運用能力の内、「書く」分野についての知識の理解 (10 ポイント)	意見文の書き方、メールの書き方、はがき・手紙の書き方、レポート・報告書の書き方、就職作文の書き方のポイントが理解できている。	意見文の書き方、メールの書き方、はがき・手紙の書き方、レポート・報告書の書き方、就職作文の書き方のポイントの理解が不十分。	意見文の書き方、メールの書き方、はがき・手紙の書き方、レポート・報告書の書き方、就職作文の書き方のポイントが理解できていない。
日本語運用能力の内、「書く」分野についての実践 (25 ポイント)	意見文、メール、はがき・手紙、レポート・報告書、就職作文を書くことができる。	意見文、メール、はがき・手紙、レポート・報告書、就職作文を書くことはできるが不十分。	意見文、メール、はがき・手紙、レポート・報告書、就職作文を書くことができない。
基礎的語彙力の理解と応用 (30 ポイント)	SPI試験の内容を理解しており、十分に解答できる。	SPI試験の内容は理解しているが、解答が不十分。	SPI試験の内容を理解しておらず、解答できない。

科目名 (英語名)	現代日本文化論 (Analysis of Japanese-culture)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(こもり きよし) 小森 潔	専任・非常勤
			25LA44			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで知らなかったことに興味を持つ姿勢が必要です。</li> <li>・出席のためだけに授業に参加し他の作業をする人、私語などで授業の邪魔になる人には、どんどん退室を命じます!</li> <li>・履修を希望する人は必ず1回目の授業に出席すること (詳細は掲示します)。</li> </ul>						
[授業の具体的到達目標]						
伝統的日本文化が現代にどのように継承されているかを探り、日本文化の特質について考察を深めることによって、国際社会における日本人としての意識が高まります。						
[授業の概要]						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能、また古くから受け継がれてきた日本の食や衣にふれ、日本文化の特質や日本独自の美意識について考察します。</li> <li>・理解を深めるために、毎回、記述式の小テストを行います。</li> <li>・教室では座席を指定します。</li> </ul>						
回数	授業計画		授業時間外の学習 (予習・復習の内容)		担当者	
1回	ガイダンス、狂言にふれてみよう		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
2回	落語1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
3回	落語2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
4回	現代に受け継がれる演劇の世界1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
5回	現代に受け継がれる演劇の世界2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
6回	歌舞伎1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
7回	歌舞伎2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
8回	現代に受け継がれる絵巻物の世界1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
9回	現代に受け継がれる絵巻物の世界2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
10回	現代に受け継がれる絵巻物の世界3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
11回	日本の絵画		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>		小森 潔	
12回	現代に受け継がれる王朝の美意識		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> </ul>		小森 潔	

		・授業時に示すポイントを復習すること。	
13回	日本の食文化	・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
14回	美男子の文化史	・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
15回	桜の文化史	・授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
試験等	期末試験（筆記試験）を実施する		小森 潔
[成績評価] 毎回の小テスト 50%、期末試験（筆記試験） 50%の比率で評価する。			
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバック] ・小テスト、期末試験の採点結果を報告する。			
	書 名	著 者	ISBN
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
[備考] 2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、受講生に望むこと、オフィスアワー等 ・受講のルールを第1回目の授業時に説明します。 ・オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。質問・相談に来てください。 ・書画カメラ・DVDの映像等も使用します。			

ループリック

評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
伝統的日本文化についての知識(10 ポイント)	「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣の特質が十分に理解できる。	「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣の特質の理解が不十分。	「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣の特質が理解できない。
伝統的日本文化の鑑賞 (20 ポイント)	「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣に触れ、その内容や魅力を深く理解し、楽しむことができる。	「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣に触れても、その内容や魅力の理解が浅く、十分に楽しむまでには至らない。	「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣に触れても、その内容や魅力が全く理解できず、楽しむことができない。
現代の日本文化についての理解 (20 ポイント)	伝統的日本文化が現代にどのように継承されているかを理解し、現代の日本文化の特質を考察することができる。	伝統的日本文化が現代にどのように継承されているかの理解が浅く、現代の日本文化の特質を考察するまでには至らない。	伝統的日本文化が現代にどのように継承されているか理解できず、現代の日本文化の特質を考察することができない。
毎回の記述式小テストへの対応 (50 ポイント)	授業で学習したことを十分に理解し、自分なりの考察も深めているため、充実した内容の解答を作成できる。	授業で学習したことの理解が不十分で、自分なりの考察が深められず、通り一遍の解答にとどまる。	授業で学習したことが理解できておらず、解答を作成することができない。

科目名 (英語名)	言語表現とコミュニケーション (Literacy & Communication)		科目コード 225470	(ふりがな) 担当者	(こもりきよし) 小森 潔	専任・非常勤 専任

2単位	開講期	前期	授業方法	講義
-----	-----	----	------	----

[履修条件、準備等]  
課題に積極的に取り組む姿勢が必要です。

- [授業の具体的到達目標]
1. 言葉に関するトレーニングを繰り返すことによって、読解能力や表現能力が向上します。
  2. グループワークによって、他者の意見をしっかり理解し自分の意見を相手に的確に伝える能力が向上します。

[授業の概要]  
話し合いの仕方、説明の仕方、大勢の人の前での発表の仕方などについて実践的に学びます。また、社会常識レベルの語彙力を身に付けるための小テストを毎回行います。  
グループワークでは友達同士のグループは作らず、ふだん交流のない人たちとも交流できるようなグループとします。

回数	授業計画	授業時間外の学習 (予習・復習の内容)	担当者
1回	ガイダンス、グループワークについての説明	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
2回	雑談力を高めよう	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
3回	話し合っ、発表しよう1：身近な出来事について	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
4回	話し合っ、発表しよう2：新聞記事をもとに	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
5回	話し合っ、発表しよう3：映像をもとに	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
6回	説明してみよう1：身近な出来事について	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
7回	説明してみよう2：映像をもとに	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
8回	自分のキャッチコピーを作ろう1	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
9回	自分のキャッチコピーを作ろう2	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
10回	自分のキャッチコピーを作ろう3	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
11回	声の発表会「私のお薦めの1冊」1	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
12回	声の発表会「私のお薦めの1冊」2	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。 ・ 授業時に示すポイントを復習すること。	小森 潔
13回	ディベートにチャレンジ1	・ 次回の授業内容を伝えるので、指示され	小森 潔



		<ul style="list-style-type: none"> <li>た予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>	
14回	ディベートにチャレンジ2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業内容を伝えるので、指示された予習をしておくこと。</li> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>	小森 潔
15回	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時に示すポイントを復習すること。</li> </ul>	小森 潔
試験等	実施しない		小森 潔

[成績評価]

小テスト 25%、グループ発表 25%、課題 50%の比率で評価する。

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバック]

- ・課題は採点の上返却する。

	書 名	著 者	I S B N	出 版 社
テキスト	特になし			
参考文献	特になし			

[備考] 2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、受講生に望むこと、オフィスアワー等

- ・受講のルールを第1回目の授業時に説明します。
- ・オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。質問・相談に来てください。
- ・書画カメラ・DVDの映像等も使用します。

## 「日本語リテラシーⅡ」小テスト 第4回

学生番号

名前

問1 次の傍線部を漢字には誤りがあります。正しい漢字を書きなさい。(10点)

1. 懇々と悟す。( )
2. 得意な才能。( )
3. 初期の目的。( )
4. 想像力の欠除。( )
5. 社長の採量。( )
6. 未前に防ぐ。( )
7. 配遇者控除を受ける。( )
8. 既応症はない。( )
9. 先入感を抱く。( )
10. 心気一転取り組む。( )

問2 次の( )にあてはまる語句を書きなさい。(10点)

1. ( )と猿。[仲の悪いたとえ]
2. ( )のよだれ。
3. ( )の尾を踏む。
4. ( )百まで踊り忘れず。
5. ( )の衆。
6. 鶏口となるも( )となるなかれ。
7. ( )を逐う者は山を見ず。
8. 前門の( )後門の狼。
9. ( )脚をあらわす。
10. 将を射んとする者は先ず( )を射よ。

## 「日本語リテラシーⅡ」小テスト 第12回

学生番号

名前

---

問1. 次の1~6の対義語を下のア~ソから選びなさい。(6点)

1 実在 ( )    2 疎遠 ( )    3 横柄 ( )

4 自立 ( )    5 秩序 ( )    6 保守 ( )

ア 親密    イ 保存    ウ 混沌    エ 思慮    オ 革新

カ 架空    キ 禁止    ク 尊重    ケ 利益    コ 慎重

サ 経過    シ 謙虚    ス 回復    セ 結果    ソ 依存

問2. 次の1~6の類義語として最も適切なものを、下のア~ソから選びなさい。(6点)

1 明白 ( )    2 貢献 ( )    3 執着 ( )

4 確執 ( )    5 拘束 ( )    6 対等 ( )

ア 寄与    イ 束縛    ウ 準備    エ 成就    オ 自由

カ 強固    キ 忍耐    ク 反目    ケ 懸念    コ 平等

サ 社会    シ 拘泥    ス 支援    セ 互角    ソ 歴然

問3. 次の下線部のカタカナを漢字で書きなさい。(8点)

1. 判断をアヤマる。( )

2. 丁寧にアヤマる。( )

3. 会社にツトめる。( )

4. 司会をツトめる。( )

5. 危険をオカす。( )

6. 過ちをオカす。( )

7. 時間をハカる。( )

8. 解決をハカる。( )